



音楽の花束コンサートを開催

■11月17日、南浜館で音楽の花束コンサートが開催されました。ソプラノ歌手の白澤玲子さんやテノール歌手の包金鐘さん、nutmegさんらの奏でる音に、たくさんの観客が訪れ、楽しんでいました。



ふれあい図書館まつりを開催

■11月23日、サン・フレッシュ枕崎でふれあい図書館まつりが開催され、絵本作家で鳥の巣研究家の鈴木まもるさんによる読書講演会が行われました。



人権擁護委員が啓発・普及活動を実施

■11月27日、特別養護老人ホーム恵比須で人権擁護委員による人権特別相談および人権啓発・普及活動を実施しました。入所者の人権を侵害する行為や、任意後見制度等への理解を深めました。



木口屋集落で自然花まつりを開催

■12月8日、木口屋集落で子育てふれあいグループ自然花主催の「自然花まつり」が開催されました。枕崎舞炎鯉によるよさこいやFAMのダンスのほか、餅つきやささまざまな工作体験などを多くの親子が楽しんでいました。



桜山野球スポーツ少年団第3位入賞 ～百田陽菜旗争奪第13回ちびマッチ選手権九州大会

12月6日、桜山野球スポーツ少年団が市長を訪問し、小学4年生以下の大会「百田陽菜旗争奪第13回ちびマッチ選手権九州大会」での第3位入賞を報告しました。福岡県筑紫野市筑紫運動広場で開催された準決勝では、優勝した福岡代表の新宮ジュニアオーシャンズに1対0で惜しくも敗れましたが、今後の活躍が期待される好ゲームでした。

キャプテンの大園朋生さんは「準決勝は、今までで一番悔しい試合になりました。この悔しさを忘れず、チームで頑張っていきたいです」と話しました。



火の神乙女太鼓 爽が九州大会第4位入賞 ～第19回全九州・日本太鼓ジュニアコンクール

12月15日、川商ホール(鹿児島市民文化ホール)において第19回全九州・日本太鼓ジュニアコンクールが開催され、火の神乙女太鼓 爽が第4位に入賞しました。

11月の鹿児島県予選で、3年連続14回目の優勝を果たして臨んだ九州大会。今年は、九州各県の上位36チームで競われ、とてもハイレベルな大会となりました。

キャプテンの萩原季羽さんは「レベルの高い九州大会で4位入賞は素直にうれしい。3月の全国大会では、悔いが残らぬよう、さらに磨きをかけ、チームが一丸となり、自分たちらしい最高の演奏をしてきます」と話していました。



枕崎小PTAがDX先進例でグランプリ ～県主催Digi-1グランプリアイデア部門でグランプリ受賞

11月28日、枕崎小学校PTAが市長を訪問し、11月17日によかど鹿児島で開催されたDigi-1グランプリアイデア部門でのグランプリ受賞を報告しました。

Digi-1グランプリは、デジタル技術を活用した優れた取り組みやアイデアを表彰する鹿児島県が主催するDXのコンテストです。その中で枕崎小学校PTAは「安心・安全な通学路作り活動」として通学路の危険箇所等を電子申請で報告し、写真付きで地図に反映する仕組みを作り上げ、その汎用性の高さや一人一人の行動が良いまちづくりに繋がる点などが高く評価されました。PTA会長の吉満公人さんは「真剣に考え行動に移すことの大切さを子どもたちに示すことができよかったです。この仕組みを共有してより良い地域づくりにつなげていきたいです」と話しました。



夢蛸たぶがわ2016が農林水産大臣賞を受賞 ～令和6年度豊かなむらづくり全国表彰事業九州ブロック

12月13日、夢蛸たぶがわ2016の代表者が市長を訪問し、同日、熊本県の九州農政局で開催された令和6年度豊かなむらづくり全国表彰事業九州ブロック表彰式での農林水産大臣賞受賞を報告しました。

今回の受賞は、地域の小売店舗と連携した買い物弱者の支援や遊休農地を活用した景観づくり、鬼火焚き等のイベント開催などの活動が、地域課題の解決や過疎地域におけるモデルとなることが評価されました。

会長の山崎昭二さんは「地道に積み重ねてきた活動が評価されてうれしいです。今後も活動を充実させ、新しいことにも取り組んでいきたいです」と話しました。



はりの伝導師桑原さん地元中原地区で講演 ～健康に生きるために今日からできること

11月12日、中原公民館において中原地区の出身で日本のはり治療を世界に広めてきた桑原浩栄さんが講演を行いました。枕崎での生い立ちや、米国に渡りどんな活動をしてきたかなどユーモアを交えて楽しく話したほか、健康に長く生きるために大事な腎臓と骨を強くするためのたった1秒でできる体操などを紹介しました。



各保存会がそれぞれの郷土芸能を披露 ～第7回郷土芸能大会を開催

11月24日、第7回郷土芸能大会が開催され、9団体(うち4団体は映像で紹介)が参加しました。

郷土芸能大会は、郷土民芸保存会が5年に1度集結し、市内の各地域や集落に伝承されている歌・踊りが広く紹介・披露されます。今回、カツオ漁が全盛の頃、エサのカタクチイワシを生かしておくために寝ずに樽の海水を替える時の労働歌であった「汐替節」や、駒水に古くから伝えられ子どもたちが踊り継ぐ「駒水ヤンセ踊り」、鹿籠金山の作業歌であった「鹿籠金山せつと節」などが披露されました。